燃料油脂新聞

発行所
㈱燃料油脂新聞社
〒103-0026
東京都中央区日本橋兜町8-8
中島ビル4階
振替口座番号00100-4-97743
電話　編集局東京03(6667)1031
販売局東京03(6667)1042
支局　札幌・仙台・関東・信越・東京・静岡・名古屋・金沢・大阪・広島・四国・福岡
©燃料油脂新聞社2017

社説　後手に回るな　次世代車対策

（1）

自販連（日本自動車販売協会連合会）によれば2016年（1～12月）の新車販売台数は前年比1・5％増の497万台と伸びたが、2011年以来5年ぶりに500万台を下回った。新車投入が少なかったことや若者のクルマ離れなどの事象も遠因。こうしたなかで省エネカーが健闘した。環境や燃費性能でリードするHV（ハイブリッド車）は快走し13・8％増106万台と100万台を超えた。プリウスが24万台でダントツ1位、2位はアクア16万台。2車種で40万台と圧倒した。

（2）

HVと並んで人気車種の軽自動車は燃費データ不正問題と増税影響で低迷し9％の大幅減少で172万台にとどまった。売れ行き不振の一因に車両価格の高額化もある。維持費は登録車にくらべて割安だが、新車購入（フル装備）費用は200万円を超しコンパクトカーを上回る。データ不正が販売低調の要因とされるが高過ぎる車両価格も原因だろう。軽自動車の特徴である安価な車両ラインアップも必要だ。販売回復には低価格車戦略も欠かせない。

（3）

これまでも指摘してきたが、HVを中心に次世代カーは普及しEV（電気自動車）、FCV（水素自動車）のインフラ整備も進んでいる。一方でガソリン車は減り続けている。HVの保有台数は600万台を超え、着実に販売台数を伸ばしている。次世代車増加に手をこまねいているわけではないだろうがSSの対応は出遅れている。点検整備力を高める研修会も実施しているが、参加業者・スタッフは限定されている。自動車販売店やカーショップにこれ以上遅れてはならない。

陸上先物　小幅上昇続く

一時的軟化も原油連動へ

2月第2週前半

2月第2週前半の陸上スポット価格は、2月入りで上昇した前週後半の水準を維持し、ガソリン、中間留分ともに堅調に推移している。前月は原油価格の一時的軟化に過敏に反応し、コスト以上にスポット価格が下落したが、足元の原油価格は安定感を保っている。

商社系、広域特約店によると、ガソリン中心値（京浜地区、製油所渡し）は㌔102円80銭～103円60銭で、前週後半比横ばい。週前半比では2円～2円20銭上昇した。

1月中旬以来、3週ぶりの水準に回復した。東燃ゼネラル石油が1日以降の外販仕切りをガソリン、軽油2円、A重油1円引き上げ、そのほかの大手元売仕切りも前週のガソリンは実質1～2円上げで、スポット市場の底上げが進展した。

灯油は、51円70銭～52円50銭が主流になった。4油種中ではもっとも上げ幅が小さく、前週前半比横ばいから50銭高。揮発油税を除いたガソリンとの価格差は、2円70銭と大幅に縮小し、灯油独歩高は薄らいできた。

軽油（未課税）は48円30銭～50円80銭と、他油種にくらべて幅広く、前週前半比50銭～1円70銭上昇した。A重油は48円～49円50銭で、50銭～1円50銭の上昇になった。軽油とA重油の値上げを小幅にとどめた系列があり、両油種は上値と下値の価格差が開いた。

TOCOM（東京商品取引所）東京バージの2月納会値は、ガソリンが101円48銭（㌔換算・揮発油税込円12銭で、味すると、ポット価格だ。場対比では油、軽油が油コスト反立っている。

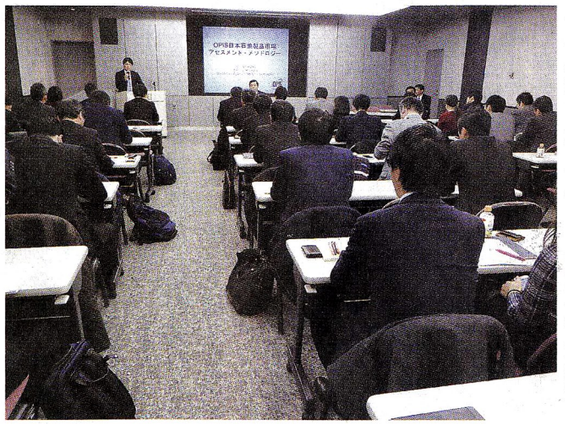
週決め仕切り改定

TG ガソリン1円50銭上げ

代理店、特約店筋によると、東燃ゼネラル石油（TG）は7～13日出荷分に適用する系列SS向け週決め仕切りをガソリンは前週比㌔1円50銭引き上げる。ガソリンの値上げ改定は4週ぶり。1月を通じて下落を続けた陸上スポットの1日以降反騰を反映した。

軽油は前週価格を据え置いた。2週連続で価格改定を見送った。

大手向け灯油は50銭程度引き下げた。灯油は4週連続の値下げ改定となった。



元売や商社関係者などが参加した説明会

週間製油所稼働率　前週比低下92％台

石連週報によれば1月22～28日の週間製油所稼働率は92％と、前週に対し0・7ポイント減少し

〝ザポカー〟普及に取り組む

高齢ドライバー事故増加対策

交通関係4省庁

経済産業省と国土交通省、警察庁など交通関係4省庁は、高齢ドライバーによる交通事故対策を進めるため、自動ブレーキなどのASV（先進安全技術）を備えた「安全運転サポート車」（仮称サポカー）の普及拡大に取り組む。

最近、高齢者によるアクセルとブレーキの踏み間違えを原因とする事故が多発している。2015年の75歳以上の運転者による死亡事故は458件で全体に占める割合は12・8％だ。とくに75歳以上の運転免許保有者10万人当たりの死亡事故件数は9・6件と、75歳未満の2倍にのぼることなどが背景にある。

4省庁が1月25日に開催した「安全運転サポート者の普及啓発に関する関係省庁副大臣等会議」（共同議長・高木陽介経産副大臣、末松信介国交副大臣）の初会合では、普及拡大に向けた論点整理と今後の進め方の案を示し、3月末までに中間とりまとめを行うことを確認した。

会合では、まずASVを防止に役立つかの効果を検証するとともに、自動車メーカーをヒアリングして、新たな技術が事故方や基準策定の方向性を整理する。また任意自動車保険のASV割引導入なども検討する。

冒頭あいさつした高木経産副大臣は「自動ブレーキなどのASV技術搭載車をどう市場に普及できるか、意欲を

警察庁に15年の運転数は821万人、うち75歳以保有者は468人、全体は5・8％、8年には75免許取得者261万人を超える。

技術や同技術を搭載するサポカーの定義を明確にする。これまでの高齢者事故の原因をデータ分析して、自動ブレーキなどのASV技術の開発対策や、安全評価制度（自動車アセスメント）のあり

2015年の新車乗用車に占める自動ブレーキ搭載率は、45・4％の174万2164台で、ペダル踏み間違い時加速抑制装置は35・9％、137万6637台と、いずれも過半に満たない現状だ。

会社・人の動き

▶「Gastech2017」4月4～7日に千葉県の幕張メッセで

天然ガスやLNG（液化天然ガス）の国際会議・展示会「Gastech2017」が4月4～7日までの4日間、千葉県の幕張メッセで開催される。日本でGastechの開催は初めてとなる。JXグループのほか国際石油開発帝石（INPEX）や石油資源開発（JAPEX）、東京ガスなど10社が参加する「Japan Gastechコンソーシアム」が主催する。東南アジアや中東などのLNG拡大を目指すため、世界各国からおよそ2万5000人が参加して、LNGプロジェクトや技術などに関する会議、600社以上が参加する展示会も催す。

◇

▶JX－ENEOS野球部、地元中学生招き野球教室

JX－ENEOS野球部（山岡剛監督）は1月28日、活動拠点のENEOSとどろきグラウンド（神奈川県川崎市中原区）に地元の中学生を招いて野球教室を開いた。2005年度から実施しているもので、12回目となる今回は4校63人が参加。JX－ENEOS野球部のコーチや現役選手が打撃、守備、走塁などの実技指導を行った。参加した生徒からは「指導を受け打撃が強くなった」「知らないことを沢山学べて勉強になった」などの声が聞かれた。

中学生に守備を指導するJX－ENEOS野球部の選手

◇

▶東燃ゼネ石が女子修道会にカレンダーを寄贈

東燃ゼネラルグループは1月16日、各事業所や従業員の家庭で使用していないカレンダーと手帳を収集し、東京

きょうの紙面
2　総合版
3　LPG版
4　山静・神奈川版
5　北海道版
6　首都圏版
7　総合市場版
8　東海・北陸版